

評価の工夫を通して意欲を高め、基礎・基本の定着を図る

【三郷市教育委員会】

1 学校・学年・教科 中学校・1学年・理科

2 ねらい

(1) 自己評価、相互評価、学習リーダーによる評価、そしてパフォーマンス評価などいろいろな評価の工夫を通し、理科を学ぶ意欲を高める。

(2) 拡大図やワークシートを使って反復練習を行い、基礎基本の定着を図る。

3 取組内容

(1) 班で課題解決に取り組む。必要に応じ、助け合い活動を行い、実習の相互評価を行う。



【具体的事例】

課題1 「火成岩を6種類に分けてみよう」

課題2 「たい積岩を6種類に分けてみよう」

班で話し合いながら、6種類をシートに分類しているところ（写真）

その後、一人一人が、順次分類し、相互に評価し合い評価カードに記入する。

(2) 級検定の合格をめざし、学習リーダーが、級検定の判定を行う。（下表）

【具体的事例】

「岩石博士を目指そう」を目標に、12種類の岩石の分類に挑戦する。

事前に、クラス5～6名の学習リーダー（岩石検定員）を募集する。

事前テストと事前指導を行い、授業で受検者の級を判定する。

岩石の級検定チャレンジ その1 「岩石博士をめざそう」

1年 組 () 氏名 _____

問	分 類	できた個数	合否1	合否2	合否3
1	火成岩とたい積岩に分類できる。	8個以上			
2	深成岩と火山岩に分類できる。	4個以上			
3	流紋岩が分類できる。	1			
~~~~~					
14	石灰岩が分類できる。	1			
15	チャートが分類できる。	1			
16	凝灰岩が分類できる。	1			

ひと〇（合格）各1点

あなたの岩石検定の級

級

1級 16点

5級 8点以上

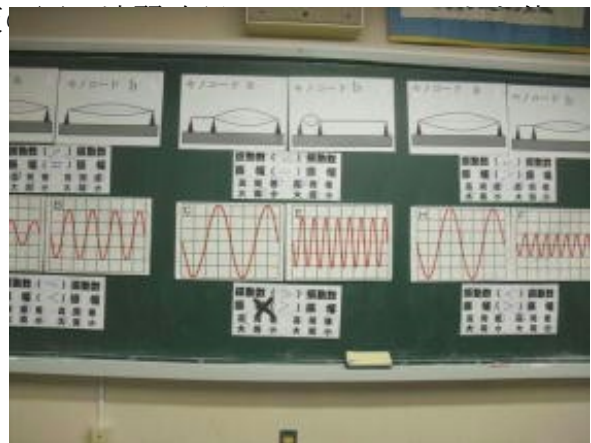
2級 14点以上

6級 6点以上

《同様のパターン》2年 原子・分子の単元では、「分子モデル達人」を目標に学習リーダーのもと級検定を実施。

(3) モノコードの実験のまとめを黒板  
 い反復練習のあと、形成評価テ  
 ストを行い基礎基本の定着を図る。

- ① 黒板に問題用の拡大図（写  
 真右）を8～10枚はり、挙手  
 により黒板に出て演習をする。そ  
 の出来具合でクラスの理解度を  
 推測する。
- ② 必要に応じて繰り返し、ワー  
 クシートで反復練習（パターン  
 練習）を行う。



- ③ 机間指導で理解の程度を確認し、形成的評価テストを実施する。
- ④ 自己評価カードで「振動数の多少」「振幅の大小」「音の高低」「音の  
 大小」を確認する。

《同様のパターン》2年 天気の世界では、「水蒸気量、露点」の学習の時に、  
 黒板でグラフ読みの演習をし、ワークシートで反復練習を行う。

(4) 評価観点を具体的にし、  
 観点にレベルをもたせ、顕  
 微鏡観察の自己評価を行う。  
 課題の観察を終了した生  
 徒には、パフォーマンステ  
 ストを実施する。  
 合格をもらった生徒は、  
 援助に当たる。

「顕微鏡観察」自己評価カード						
1年 組 ( ) 氏名						
1 顕微鏡操作						
No	顕微鏡の操作				点	検
1	横から見ながら、対物レンズを近づけることができる。				1	
3	倍率を変え、400倍で見ることができる。				3	
2 プレパラート						
No	名前	点	検	詳しく見よう	点	検
1	トウモロコシ	1		道管と篩管の区別	1	
9	アメーバー	3		3匹います。(何匹確認)	3	
感想 -----						

#### 4 成果と課題

- (1) 自己評価カードを使うこ  
 とにより、学習のねらいが  
 明確になり、何が分かればよいのか、目標がはっきりしてくる。つまずい  
 たときにも、どこがつまずいたかわかる。しかし、評価する目が個人によ  
 り差があるのでそこをどうするかが課題である。
- (2) ペアや班で行う相互評価では、自己評価とはまたちがって、緊張感をも  
 って臨むことができる。できなかったところ、わからないところは教え合  
 うこともできる。充実した班活動を行うためには理科班の編成が課題とな  
 る。
- (3) 級検定方式は、生徒が意欲を持って臨むことができる。学習リーダーも  
 事前テストに何度もチャレンジし「公認検定員」のカードを手に入れよう  
 とするなど効果的である。課題は、「級検定」方式は、時数がオーバーし  
 がちなので、内容と計画を見直す必要がある。

